

キーワード

基礎的な知識・技能の習得

標 題

学習内容の確実な定着を図る指導方法の工夫

①学校の概要 (平成25年7月1日現在)

・児童生徒数176名 ・学級数8学級 ・教職員数20名

②取組を始めた経緯

文部科学省のスクールニューディールによるICT環境の整備が行われたのを契機にICT活用による指導力の向上と授業改善をすすめ、確かな学力の向上をめざすことにした。また、総社市の誰もが行きたくなる学校づくりの取組と合わせて総合的に学力向上に取り組むことにした。

③取組の実施体制

学力向上と誰もが行きたくなる学校づくりを総合的に取り組むために、学校経営計画の中に確かな学力、豊かな心、健やかな体のプロジェクト型体制をつくり、学校評価と一体型にした取組にし、組織力の向上を図った。学力向上については確かな学力部を中心にICT活用による授業改善を重点課題として取り組む体制にした。

④学力向上に向けた具体的な取組

- ICTを活用したわかる授業づくり
 - ・県総合教育センターの指導主事を招聘し、実物投影機とフラッシュ型教材を活用した授業づくり研修を計画的に行った。
 - ・結線や操作の習得、効果的な映し方の協議、わかりやすい発話の協議
 - ・フラッシュ型教材の体験、教材の作成、フラッシュ型教材を活用した模擬授業
- 教室にコンピュータ、実物投影機の常設
- デジタル教科書の導入
- 先進校への視察
- 基本的なICT活用授業(西小スタンダード)の設計
- 授業振り返りカードの作成と活用
- 誰もが行きたくなる学校づくりの取組
 - ・協同学習による学習意欲の向上と良好な人間関係づくり
 - ・品格教育で道徳性を伸ばし、落ち着いた学習環境づくり
 - ・SEL、ピアサポートで安心して学習できる人間関係づくり
 - ・校内研究授業の実施と大学教授招聘による指導助言

⑤取組の成果と課題

○教科書や教材を大きく映すことで児童がスクリーンに集中し、意欲や関心が高まった。
○大きく映すことで特別支援が必要な児童にも視覚的にわかりやすくなり、説明、指示、発問を工夫したので、児童が学習に集中できるようになった。
○スクリーンに書き込んだり、指し示したりして焦点化したので児童にわかりやすくなった。
○教師の説明だけでなく、児童もICTを活用して互いに説明し合うことで学び合いができた。
○フラッシュ型教材の活用で、前時の復習や本時のまとめをすることで学習したことが知識として定着しやすくなった。
○誰もが行きたくなる学校づくりの取組で児童が落ち着き、安心して学習に取り組めるようになった。
○西小スタンダードの活用により、学習規律が定着するとともに授業づくりの視点が明確になった。

⑥取組の継続・発展の要因

ICT活用による授業改善については、ICTを効果的に活用した授業づくり研修に重点を置いて行ったことや実際の授業でどう使うと効果的であるかを模擬授業を取り入れて協議したことで、教員の授業改善への意欲が高まった。研修前はあまり活用していなかった教員が研修後には毎日活用するようになったのも大きな成果であった。教師の説明中心の授業から、児童自身も積極的にICTを活用する参加型の授業に改善することができ、教師自身が日頃の授業改善への手応えを感じている。さらには、フラッシュ型教材でわかったことを一斉に声を出して唱えることが学力の向上につながっている。
誰もが行きたくなる学校づくりの取組により、落ち着いた学習環境での学習意欲の向上が学力向上に役立っていると教師に実感できていることが継続の要因になっている。

⑦管理職・中核教員等のアクション

○管理職

管理職が積極的に先進校視察や情報収集をし、市が整備したICT環境の有効活用を精査し、学校経営計画に位置づけ、ICT活用による授業改善で学力向上を図ることを明示し、ICT活用授業づくり研修を推進した。

○中核教員

校内の教員のICT活用状況を調査し、先進校視察で情報を収集し、本校に適した授業改善のための方策を企画・実践すると共に自らICT活用と協同学習を組み合わせた授業公開をし、浸透を図った。

⑧資料・写真等

